

巻頭言

論文を書くということ

国立病院機構仙台医療センター 副院長

橋本 省

生涯教育は医師にとって必須なものである。すなわち、医師は医師である限り勉強を続けなければならないということであり、そのようにして時代にあった医療を行える。医療には個人の長年の経験から導かれる医療（*empiric medicine*）があり、多くの積み重ねられた証拠に基づく医療（*evidence based medicine*）があり、そして、最新の知見に基づく先端の医療（*advanced medicine* あるいは *state-of-the-art medicine* か）などがあるとされるが、この中では後2者が好ましく、前者は時に科学的でないと言われることもある。辞書では *empiric* は「ヤブ医者」と訳されることもある。しかし、経験に基づく医療は多くの場合正しく、時に証拠に基づく医療よりも優ることは多くの医師が経験しているであろう。また、「証拠」は「経験」の積み重ねということもできよう。その経験を証拠にして行く方法の一つが論文である。

良く考察され、検証された論文は科学的証拠として認められることが多い。他には伝えにくい個人的経験も、文献引用を含めた吟味を経て論文となる事によって、広く世に伝えられるようになる。そのようにして医学、医療は進歩して行くのである。そして、論文を読み、また自ら執筆することは医師の生涯教育において重要な位置を占める。その役割を担うのが医学雑誌であり、国際的に登録された医学雑誌に掲載された論文は多くの人を読むことが可能となる。本誌は ISSN 登録番号がついており、掲載論文は引用可能である。すなわち、本誌に論文を載せることは医学の進歩に寄与することになる。ぜひ、多くの若い医師が自分の経験や考えを本誌に投稿して欲しい。

論文を書くということは医学教育にとって極めて有効である。特に研修医にとっては、自分が出会った症例を報告することにより、その疾患について診断から治療まで掘り下げることになるため深い知識が身につくと同時に、科学的なものの考え方や、これから度々執筆して行くことになる医学論文の書き方の基礎を築く良い機会である。今後の長い医師生活のスタートにあたり、本誌に記録を残すことは意義深いものとなると思う。